

# 本市人口は5年間で1.5%減の38,455人 年少人口(15歳未満)が減少し老年人口(65歳以上)が増加

## 平成17年国勢調査の概要

平成17年10月1日現在で行われた「国勢調査」の概要(第1次基本集計結果分)が総務省から発表されました。本市の総人口は、3万9,000人台を割り込んだほか、少子高齢化を表す人口構造が明らかになっています。

### 前回調査から 604人減少

本市の総人口は、3万8,455人(男1万7,996人・女2万4,59人)と、5年間に604人減りました。

表1：本市の人口推移

調査年	総人口	男	女	(単位：人)	
				増減数	増減率
昭和30年	39,452	19,232	20,220		
" 35年	41,033	19,527	21,506	1,581	4.0%
" 40年	38,796	18,289	20,507	▲2,237	▲5.5%
" 45年	37,690	17,563	20,127	▲1,106	▲2.9%
" 50年	38,797	18,390	20,407	1,107	2.9%
" 55年	40,755	19,317	21,438	1,958	5.0%
" 60年	40,501	19,063	21,438	▲254	▲0.6%
平成2年	39,213	18,236	20,977	▲1,288	▲3.2%
" 7年	39,004	18,030	20,974	▲209	▲0.5%
" 12年	39,059	18,213	20,846	55	0.1%
" 17年	38,455	17,996	20,459	▲604	▲1.5%

### 中郷・追子野木に 人口の6割が集中

最も多かった昭和35年の4万1,033人をピークに、45年は3万7,690人まで落ち込みましたが、55年には再び4万人台に復活。その後、60年からは減少傾向に転じ、今回の調査でも1.5%減となるなど、その傾向に歯止めをかけられませんでした(表1参照)。

市街地の黒石地区は、年々人口減少が続く、総人口に占める割合も1割を切って3,674人の9.6%でした(表2参照)。

市街地の北から東に隣接する中郷地区は、1万9,928人で前回と比べ60人の減となり、昭和40年から増加を続けてきた人口の拡大がストップ。

山形地区では、2,855人減の4,721人、六郷地区で1,336人減の4,211人、浅瀬石地区で1,539人減の2,627人と、いずれも60年から軒並み減少しています。

一方、追子野木地区は、前回に比べ2,924人増の3,294人で、平成2年以降、急速に人口拡大が進み、総人口に占める割合が8.6%になりました。人口分布は、ドーナツ現象の傾

### 年代別の最多は 56歳の730人

向が顕著で、市街地の黒石地区が1割を切り、周辺地域の中郷・追子野木地区に6割が集中している結果となっています。

年齢別では第1次ベビーブーム世代が突出して多くみられ、最も多いのが56歳の730人で、次いで55歳の701人、58歳の659人と続きます。

30〜34歳の第2次ベビーブーム世代については、合計で2,246人と、他の年齢層と比較しても多いとはいえず、74〜35歳の各世代よりも少ない数値でした。

### 1415歳未満の年少人口は 14.8%の5,698人

本市人口を3区分別で見ると、15歳未満の年少人口が5,698人で、15〜64歳の生産年齢人口が2万3,996人、65歳以上の高齢人口は、8,761人となっています(表3参照)。

年少人口が減少し、老年人口が増加する傾向は変わらずに続き、昭和40年調査時に比べると年少人口が半分以下で、高齢人口が3.7倍になりました。

表2：地区別人口の推移

区分	計	(単位：人)					
		黒石	中郷	追子野木	六郷	山形	浅瀬石
平成7年	39,004	4,376	19,408	2,611	4,508	5,241	2,860
" 12年	39,059	3,936	19,988	3,002	4,347	5,006	2,780
" 17年	38,455	3,674	19,928	3,294	4,211	4,721	2,627

表3：年齢3区分別人口と割合

区分	総人口	(15歳未満)		(15〜64歳)		(65歳以上)	
		年少人口	年少人口割合	生産年齢人口	生産年齢人口割合	老年人口	老年人口割合
平成7年	39,004	6,786	17.4%	25,472	65.3%	6,746	17.3%
" 12年	39,059	6,235	16.0%	24,921	63.8%	7,903	20.2%
" 17年	38,455	5,698	14.8%	23,996	62.4%	8,761	22.8%